

聖書日課 『からし種』 2024.1.7-1.14

<p>1月7日 (日)</p> <p>詩編 54編</p>	<p>「神よ、御名によってわたしを救い／力強い御業によって、わたしを裁いてください」(3節)。神の裁きは常に公正であって、それぞれの行いに応じた裁きがくださる。詩人はその神の裁きの公正を信頼し、また自らの行いがもたらす判決は救いであると信じている。日々、神を自らの前に置いて、神の示してくださる道を歩き通すことができますように。</p>
<p>8日 (月)</p> <p>詩編 55編</p>	<p>「あなたの重荷を主にゆだねよ／主はあなたを支えてくださる。主は従う者を支え／とこしえに動揺しないように計らってください」(23節)。一度は、鳩の翼で遠くに逃れたいと嘆き、自分に敵対する者の滅びを主に語り続けた詩人。最後に「わたしはあなたに依り頼みます」と主に委ねた。インマヌエルの主はわたしが主に委ねる以前に、伴ってくださっている。</p>
<p>9日 (火)</p> <p>詩編 56編</p>	<p>「あなたはわたしの嘆きを数えられたはずですが。あなたの記録に／それが載っているではありませんか。あなたの革袋にわたしの涙を蓄えてください」(9節)。昨年、いくつの嘆きが数えられ、どれだけの涙が主の革袋に蓄えられただろうか。新しい年、嘆きも涙もこの世界に、これ以上増し加わることのないよう、心をあわせ、祈り続けていきたい。</p>
<p>10日 (水)</p> <p>詩編 57編</p>	<p>「わたしは心を確かにします。神よ、わたしは心を確かにして／あなたに賛美の歌をうたいます」(8節)。魂がかがみこみ、きつと下を向いていただろう詩人。天に満ちる神のまことにきづき、目を上げることができた。詩人自身が、琴に呼びかけ、「曙を呼び覚ます」と宣言し、主を賛美する。信仰が疑問視される今こそ、私たちも、主の慈しみを伝える賛美を歌おう。</p>

メール配信登録メール [senfkorn.obc@gmail.com](mailto:senfkorn.obc@gmail.com)

大井バプテスト教会

メール配信希望の方は名前とアドレスを明記の上、上記のアドレスまで

聖書日課 『からし種』 2024.1.7-1.14

<p>11日 (木)</p> <p>詩編 58編</p>	<p>「人は言う。『神に従う人は必ず実を結ぶ。神はいます。神はこの地を裁かれる』(12節)。異教の神々に囲まれ、迫害や戦いが絶えない時代、常に「神はいます」と語り伝え続けることが求められていたのだろう。インマヌエルの主をいただいている私たちも、主の恵みを分かち、「主は常に共にいてくださいます」と伝え続けることが求められている。</p>
<p>12日 (金)</p> <p>詩編 59編</p>	<p>「わたしは御力をたたえて歌をささげ／朝には、あなたの慈しみを喜び歌います。あなたはわたしの岩の塔、苦難の日の逃れ場」(17節)。敵から救い出してほしい！と願う詩人は、敵を支配することを望み、あるいは絶やして一人も残さないでとも願う。そして、主への信頼は揺らぐことなく、主をたたえ歌う。わたしたちも、心から声高く、主への賛美を歌いたい。</p>
<p>13日 (土)</p> <p>詩編 60編</p>	<p>「あなたを畏れる人に対してそれを警告とし／真理を前にして／その警告を受け入れるようにされた」(6節)。今、この世界に起こっていることは神が与えられた「辛苦の酒」なのだろうか。神は民に辛苦を与えられるのだろうか？神でなく、私たち自身が招いているものではないのか？そうであっても、この状況はしっかり警告として受け止めなければならないだろう。</p>
<p>14日 (日)</p> <p>詩編 61編</p>	<p>「心が挫(くじ)けるとき／地の果てからあなたを呼びます。高くそびえる岩山の上に／わたしを導いてください」(3節)。「地の果てから」神を呼ぶという言葉に、ルカ 17 章の重い皮膚病の人々が「遠く」に主イエスを見つけて叫ぶ姿を想う。私たちには「遠く」思えても、主イエスのまなざしが確かに私たちに注がれている以上、私たちの祈りが空しく終わることはない。</p>